

## Contents

かつて東京は水の都だった Volume 1 2002.9	5
荒川放水路が荒川となって Volume 2 2003.1	31
水道の水—秋ヶ瀬取水堰にて Volume 3 2003.11	59
水道水は安全ですか？ Volume 4 2004.8	85
荒川の記憶—荒川中流部にて Volume 5 2005.6	111
荒川もう一つの旅—六堰頭首上にて Volume 6 2006.2	137
荒川中流部右岸流域のこと Volume 7 2006.10	163
秩父からの便り—荒川流域の祭り・行事 Volume 8 2007.7	191
緑のダム・都市のダム Volume 9 2008.8	219
下水—その先に東京湾 Volume 10 2009.3	245
流域の水ネットワーク	276
水を追いかけたら田んぼに行き着いた	278

## 「荒川流域を知る1」作成にあたって



本書は、NPO法人水のフォーラムの機関誌「水のFORUM」の1～10号に掲載した特集・「荒川流域を知る」第1回シリーズをまとめたものです。荒川を河口から順次遡りながら水源の山へ向かい、下水道を下って東京湾に戻りました。

水はつながっているにも関わらず、これまで発信されてきた情報は水災害に対する管理のための情報。そのため専門性で分断され、水系も分断されて、私たちの理解は常に部分に止まっていました。

実際の水の流れはどうなっているのだろうか。一度分野を超えて横断的・総合的に水を見てみたいとNPOを立ち上げ、「水のFORUM」の発行を通じて学んできましたが、たしかに水の世界は広く、深く、各号テーマに分けてまとめざるを得ませんでした。それでも根気強くつないでいるうちに、概略は理解できるようになりました。

全体が視野に入れば、これまで部分で止まっていた情報も息を吹き返し、さらに充実した水の世界へ誘ってくれます。暮らしの場でも、市民活動の場でも、なにが求められ、なにをすべきか、だいふ見えてきました。

「水のFORUM」の1～10号の発行には7年を要しました。この間、社会状況も変わり、さまざまな分野で見直しが行われています。本書でもそれぞれ加筆が必要ですが、平成14年～20年までの流域の水の記録として、またそこで見た水の流れほどの時代にあっても普遍と思うことから、そのまま合本することにしました。

本書が、皆様の生活や活動の場で多少とも参考になれば幸いです。